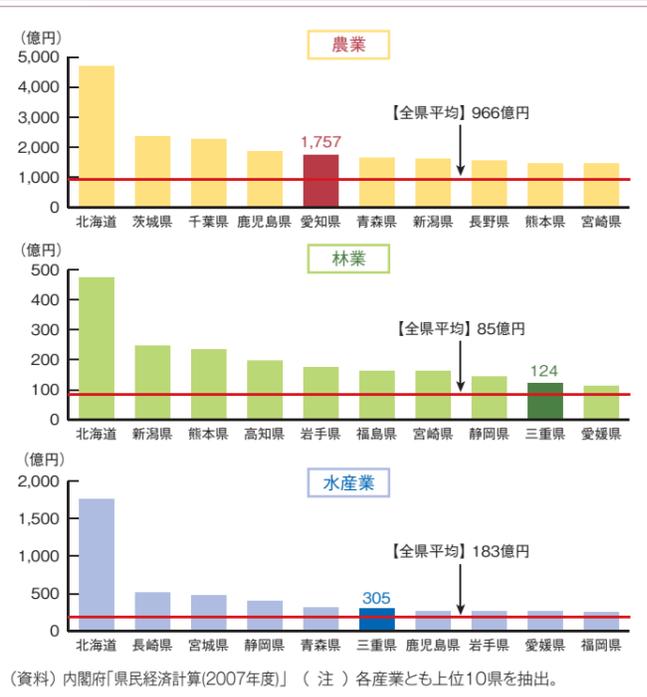


# データでみる中部のすがた

## 三重・愛知の第一次産業の状況と農商工連携の可能性

図表1 農林水産業の名目生産額<都道府県別比較>

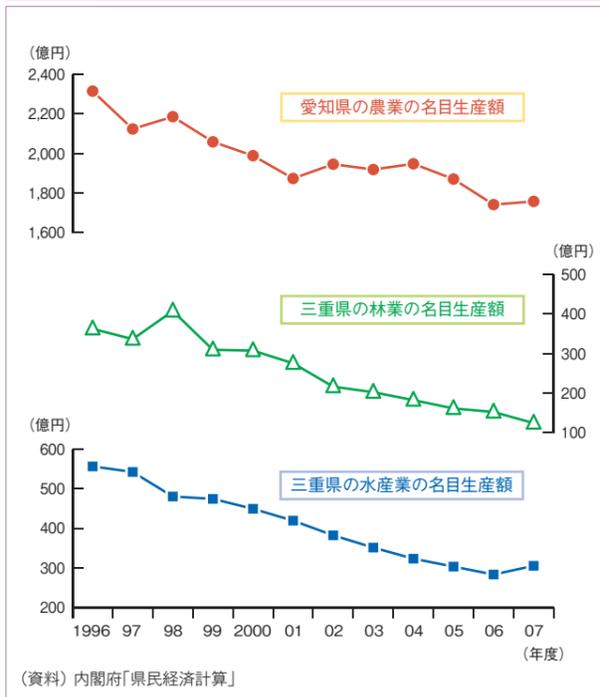


図表2 三重・愛知の日本一<農林水産品>

県	分野	項目	値	全国シェア	年次
三重	農産品	なばな収穫量	1,970トン	41.5%	2006
		かぶせ茶生産量	1,660トン	39.3%	2008
		ざつき・つつじ生産量	27,152千本	36.8%	2007
	林産品	ホンシメジ生産量	60トン	50.0%	2008
	水産品	遠洋かつお一本釣り漁獲量	18,848トン	24.6%	2007
		いせえび漁獲量	210トン	16.2%	2007
愛知	農産品	ふき産出額	13億円	43.3%	2007
		しそ産出額	81億円	59.1%	2007
		きく産出額	259億円	32.4%	2007
	水産品	洋らん(鉢)産出額	83億円	23.9%	2007
		観葉植物(鉢)産出額	84億円	46.4%	2007
		うずら卵産出額	29億円	68.6%	2006
水産品	あざり類漁獲量	13,638トン	38.1%	2007	

(資料) 三重県、愛知県HP資料を基に、三重銀総研作成

図表3 愛知県の農業、三重県の林業・水産業の名目生産額の推移



図表4 三重・愛知両県の農商工連携の事例

県	中核団体
【農商工連携88選】の事例	
三重	(株)熊野古道おわせ
2007年4月オープン「夢古道おわせ」の管理・運営を目的に、尾鷲市商工会議所の役員等が中心となって同社を設立。「夢古道おわせ」における特産品開発塾、体験学習等で地元農産品を活用。大学等と連携して海洋深層水を利用した商品の開発・PR・普及に努め、販路拡大に貢献。	
三重	ギョルメ舎フーズ(株)
水産加工、食料品販売、民宿、製材業者などの異業種企業が立ち上げた「ギョルメクラブ」を母体に、海産加工食品製造・販売を行うおこし企業として同社を設立。鯛、牡蠣等の海産物、米、お茶等の地域資源を活用して、加工食品を販売するなど、「三重・さほく」ブランドづくりを実施。	
愛知	あいち中央農協営農部会
地元農業の維持発展、地産地消・食育活動による地域環境への貢献を目的に、農業者、商工業者、消費者等を会員とする「一粒の会」を設立。生協と連携してイベント等を開催し、地元農産物(小麦・大豆等)を使用した加工品のPR・販売促進運動や会員による農作業体験等を実施。	
【ベストプラクティス30】の事例	
三重	尾鷲市新産業創造課
「尾鷲市特産品開発塾」を開講し、百貨店や通信販売業者のバイヤー等の専門家を招聘して、地域の特産品開発や既存商品・サービスのブラッシュアップ等についてセミナーなどを行うとともに、都市部の百貨店で実販売を行うなどの実践的な取り組みを推進。	
愛知	食農産業クラスター推進協議会・青じそ加工研究会
農業者、食品メーカー、食材加工業者により同会を設立。各主体が連携することで、参加メンバーの市場や流通、新商品開発、地元農産物に対する意識を変革しながら、規格外青じそを加工品へ有効活用した、全国に通用する新しい地域ブランドづくりを実施。	

(資料) 農林水産省・経済産業省「農商工連携88選」「地域を活性化化する農商工連携のポイント～農商工連携ベストプラクティス30を参考に～」を基に、三重銀総研作成

### 1. 全国上位にある愛知県の農業、三重県の林業・水産業

- わが国の「ものづくり」の先導役として、輸送機械工業を中心に製造業が産業全体に占める割合が高い中部地域のなかでも、愛知県や三重県においては第一次産業が一定の規模を有し、愛知県では農業、三重県では林業・水産業の生産額が、都道府県別にみて全国上位にあります。
- 実際、内閣府「県民経済計算」により、2007年度の農業・林業・水産業の名目生産額をそれぞれ都道府県別に比較してみると(図表1)、農業の名目生産額は、愛知県が1,757億円と全国で5番目に多くなっています。そのほか、林業の名目生産額は、三重県が124億円と全国で9番目、水産業の名目生産額も、三重県が305億円と全国6番目に、それぞれ金額が大きくなっています。
- 個別の品目についてみても(図表2)、愛知県の農産品としては、ふきやしそといった野菜類、きくや鉢植えの洋らん、観葉植物といった花き類で日本一の産出額を誇る品目があるほか、三重県では、林産品としてはホンシメジの生産量、水産品としては遠洋かつお一本釣りやいせえびの漁獲量が日本一となるなど、全国を代表するさまざまな農林水産品が存在しています。このように、三重県や愛知県は、「工業県」としての顔を持つだけでなく、第一次産業も活発に生産活動を行っている県であるといえます。

### 2. 農商工連携を通じた第一次産業の生産力向上に向けて

- ただし、愛知県や三重県の第一次産業の生産額は年々、減少してきています。ここで再び、内閣府「県民経済計算」により、愛知県の農業、三重県の林業、水産業の名目生産額の推移をみると(図表3)、愛知県の農業や三重県の水産業には足元でやや持ち直しの動きもみられるものの、いずれも基本的に右肩下りの傾向を辿っています。
- こうしたなか、愛知県や三重県でも、農林水産業に係る売上や利益の増加を目的として「農商工連携」の取り組みが始まりつつあります。農商工連携とは、農林漁業者と、商工業等を営む中小企業者が協力して、それぞれ単独では難しかった新しい商品・サービスの開発・生産を行って、市場で販売していくという取り組みです。
- この点について、愛知県や三重県における農商工連携の事例をみてみると(図表4)、全国でも先進的、効果的な取り組みとして、愛知県の農産品や三重県の農産品、水産品に関する事例が採り上げられています。今後は、そうした先進事例の仕組みなどを参考にしつつ、農商工連携を通じて、消費者のニーズを喚起するような新しい商品・サービスを開発・生産することにより、愛知県や三重県で第一次産業の生産力が向上していくことが期待されます。

馬場 基記